

データを管理し、ビジネスを加速

ビジネス上重要な信頼性の高い統合データへの
アクセスを可能にし、業務を改善

この文書には、Informatica Corporation (Informatica) の機密情報、専有情報および企業秘密情報（以後、「機密情報」とします）が含まれており、Informatica による事前の書面による承認を得ることなく、いかなる手段においても、この文書をコピー、配布、複製、複写することを禁止します。

この文書の情報が正確かつ完全であるようにあらゆる試みを行っていますが、誤植または技術的に不正確な部分が存在する可能性があります。Informatica は、この文書に含まれる情報の使用から生じるいかなる損失に対しても一切の責任を負いません。この文書に含まれる情報は、予告なく変更されることがあります。

こうした資料で検討している製品特性を Informatica ソフトウェア製品のリリースやアップグレードへ採用することは、リリースやアップグレードの時期と同様に、Informatica が独自に決定します。

以下の米国特許の1つまたは複数の特許によって保護されています :6,032,158; 5,794,246;6,014,670; 6,339,775; 6,044,374; 6,208,990; 6,208,990; 6,850,947; 6,895,471; または以下の申請中の米国特許 : 09/644,280; 10/966,046; 10/727,700。

当文書は英語で作成されたものであり、翻訳した言語の間に差異が生じる場合もありますが予めご了承ください。

2015年3月発行

Table of Contents

整合性がとれていないデータにかかるコスト	2
Informatica MDM によるビジネス上重要なデータの管理	2
ビジネス価値への貢献実績	2
企業の戦略的課題に対応可能	3
B2B のクロスセルとアップセルの機会の活用	3
B2C ビジネスの生産性の向上とコストの削減	3
法規制へのコンプライアンス強化	3
マルチドメイン MDM への実績ある柔軟なアプローチの採用	4
MDM を実現するプラットフォームアプローチでビジネスの価値を最大化	4
小規模での迅速な開始と必要に応じた拡張	4
MDM 関連のビジネス課題の解決	4
既存の技術投資およびスキルの活用	4
価値創出までの時間の短縮、TCO の削減、および ROI の向上	5
Informatica MDM : Informatica プラットフォームの主要コンポーネント	5

Informatica MDM は、複数のデータソースに分散したビジネス上重要なデータの信頼性の高いビューを提供することによって、業務の改善、新しい販売機会の獲得、戦略的課題の解決を可能にします。

整合性がとれていないデータにかかるコスト

顧客、製品、パートナー、サプライヤーなどに関するビジネス上重要なデータに整合性がなかったり、重複したりしているだけでなく、そのデータが社内各所の異種システムにさまざまな形式で保存されているような状況では、戦略的なビジネス課題に対応できないおそれがあります。整合性がとれておらず、かつ不正確なデータが存在する組織では、次のことがさらに困難になります。

- ・ 顧客の獲得と維持
- ・ 競争力を高める差別化要因としての運用効率の活用
- ・ 企業買収から価値創出までの時間の短縮
- ・ 十分な情報に基づいた意思決定の支援

従業員は、複数のシステムに異なる形式で分散するデータを手動で検索し照合することに余計な時間を費やしています。

不整合なデータにかかるコストは膨大で、マスターデータの課題を解決するのはたやすいことではありません。企業が処理しているデータ量やデータ形式の種類はかつてないほど増加しており、その元となるパートナーやシステムも同様に増加しています。こうしたデータは、社内外のさまざまな場所に分散して保管されており、そのため、すべてのデータにアクセスできる技術を見いだすことが困難な課題になってきています。さらに、必要な場所で必要なときに単一バージョンのデータを提供するには、時間とコストがかかります。

Informatica MDM によるビジネス上重要なデータの管理

Informatica MDM は、ビジネス上重要な信頼性の高い統合されたデータが企業全体にわたって分散している場合でも、ビジネスユーザーがデータにアクセスできるようにすることで、業務を改善します。Informatica MDM は真のマルチドメインマスターデータ管理 (MDM) ソリューションであるため、まずは任意の種類のビジネス上重要なデータから始めて、好きな数だけドメイン (顧客、製品、パートナー、サプライヤー、資産、場所など) を追加できます。また、Informatica MDM は最善のパフォーマンスを発揮することにも定評があり、単一プラットフォームですべての MDM 要件 (データ統合、プロファイリング、品質、マスターデータ管理) を包括的にサポートします。

ビジネス価値への貢献実績

Informatica には、金融、保険、証券、ライフサイエンス、製造業、ヘルスケア、政府など、さまざまな業界のトップ企業のデータ中心型ビジネスの課題に対応してきた実績があります。Informatica を選択したこれらの企業は、包括的、統一的、経済的、かつオープンなマルチドメインマスターデータ管理を単一プラットフォーム上で実現し、価値創出までの時間の短縮、TCO の削減、および ROI の向上を可能にしています。

企業の戦略的課題に対応可能

複数のデータドメインと、複数のアーキテクチャスタイルを管理できる、統一アーキテクチャーにより、マスターデータ関連のあらゆるビジネス課題を解決します。

B2B のクロスセルとアップセルの機会の活用

目標：グローバルな製造業者が、B2B マーケティングおよび営業効率の向上を希望していました。

課題：収益上位 400 の顧客について、どの製品がどの場所にあるか、顧客が有効なサービスレベル契約を締結しているかどうか、どのチャンネルを通じて購入しているかを特定できませんでした。

根本原因：顧客、製品とサービス、契約、従業員、チャンネルパートナーについてのビジネス上重要なデータが、企業全体にわたって複数のシステムに異なる形式で分散していました。

ソリューション：Informatica MDM の拡張顧客ビューを使用して、マーケティングおよび営業管理を強化しました。これにより、収益上位 400 の顧客について、製品とサービス、製品がインストールされている場所、サービスレベル契約のステータス、購入チャンネルを単一の顧客ビューで表示することを可能にしました。

結果：従業員がより適切なクロスセルとアップセルを行えるようになり、マーケティングおよび営業の効率が向上しました。

B2C ビジネスの生産性の向上とコストの削減

目標：グローバルな個人向け資産管理会社が、財務アドバイザーの生産性向上による増収を希望していました。

課題：財務アドバイザーが、情報を手動で検索してスプレッドシートにまとめることに業務時間の 70% を費やしており、顧客との対話と収益創出活動に費やすことのできる時間が全就労時間のわずか 30% しか残されていませんでした。

根本原因：顧客、アカウント、製品とサービス、従業員に関するビジネス上重要なデータが、組織全体にわたってアカウント中心型システムに異なる形式で分散していました。

ソリューション：Informatica MDM の拡張顧客ビューを使用して、マーケティングおよび営業管理を強化しました。これにより、顧客が利用しているすべての製品とサービスに加え、価値があるにもかかわらず利用されていなかった家族とビジネスの関係を単一の顧客ビューで表示できるようになりました。

結果：1 万 6,000 人の財務アドバイザーの生産性が 30% 向上しました。

法規制へのコンプライアンス強化

目標：大手製薬会社が、医療関係者の販売促進費の開示を求める各種州法へのコンプライアンスの徹底を希望していました。

課題：全事業部門および全部門の医療関係者ごとに、販売促進費を手動で統合していたため、迅速かつ正確にレポートを作成できませんでした。

根本原因：医療関係者や、営業およびマーケティング費用に関するビジネス上重要なデータが、企業全体にわたって複数のシステムに異なる形式で分散していました。

ソリューション：Informatica MDM を基盤に、全部門の医療関係者を網羅した単一バージョンを利用し、その単一バージョンに対して経費を追跡するための経費報告レポートの作成を支援しました。

結果：迅速で正確なレポートの作成により、医療関係者の販売促進費の開示を求める各種州法へのコンプライアンスを実現しました。

最も効果的なアプローチ

トップ企業は、Informatica MDM を活用して、包括的、統一的、経済的、かつオープンなマルチドメインマスターデータ管理 (MDM) を単一プラットフォームで実現しています。

Informatica のプラットフォーム MDM アプローチなら、まずは小規模に始めて 1 つのビジネス課題に対応し、その後、MDM システムを拡張して社内のその他のニーズに対応することによって、投資や労力を活用できます。

お客様の声

「Informatica MDM は、マスターデータ管理ソリューションのニーズを満たしてくれました。効果を高めるため、全顧客を重複しない形で識別、500 万人以上の購読者の集計ビューが可能になりました。

このため、顧客が現在所有している商品をさまざまな事業部門で認識できるようになりました。結果としてコミュニケーションが効果的になり、不要または重複した顧客案内を最小限に抑えて、顧客の実際の好みに合っていると思われる商品の組み合わせを確認できるようになりました。

LexisNexis

企業の戦略的課題に対応

企業全体で共有しているビジネス上重要なデータの不整合とエラーを放置しておいてよいのでしょうか。効果的なマスターデータ管理 (MDM) を行うことが、グローバル企業として繁栄するうえでの基盤となります。

ビジネス上重要なデータ (顧客、製品、パートナー、サプライヤー、資産、場所などに関するデータ) を統合し、信頼性を高めることで、業務を改善しましょう。営業、マーケティング、サービス提供、リスク管理、コンプライアンス、財務、経営の各チームが、効率的に目標を達成できます。

マルチドメイン MDM への実績ある柔軟なアプローチの採用

ビジネスの課題には、さまざまなものがあります。解決が必要なビジネス上重要なデータの種類は、顧客データをはじめとして複数存在します。市場に出回っている MDM システムのほとんどはアプリケーション MDM アプローチが採用されているため、解決できるビジネス課題は 1 つに限られます。これは、複数の MDM サイロがある場合、不完全なアプローチと言えます。こうしたシステムとは異なり、Informatica MDM では、マルチドメインのプラットフォームアプローチが採用されています。そのため、差し迫ったビジネス課題を解決し、迅速に価値を提供し、投資を活用して社内の他のビジネス課題に対応できます。

MDM を実現するプラットフォームアプローチでビジネスの価値を最大化

Informatica MDM は、包括的、統一的、経済的、かつオープンな MDM を単一プラットフォームで実現することで、次のような独自の機能と利点を提供します。

小規模での迅速な開始と必要に応じた拡張

最も切迫したビジネス課題の解決を目的に、MDM の実装を小規模で集中的に開始できます。その後、同じプラットフォームで作成したルールは、他のビジネス課題の対応に活用することも可能です。この柔軟な拡張性は、Informatica MDM がすべての MDM 要件（データ統合、データプロファイリング、データ品質、マスターデータ管理、およびデータサービス）を包括的にサポートすることによって実現しています。

MDM 関連のビジネス課題の解決

Informatica MDM の優れた柔軟性を利用して、各業界の MDM 関連のビジネス課題を解決します。統一された MDM アーキテクチャーにより、複数種類のビジネス上重要なデータ（顧客、製品、パートナー、サプライヤー、契約、アカウント、従業員、場所など）を単一プラットフォームで管理できます。

既存の技術投資およびスキルの活用

ビジネスユーザー各自が選択したアプリケーションから信頼性の高いデータにアクセスできるようにすることで、ビジネスアプリケーションへの投資対効果を最大化します。IT ユーザーは、既存の技術的なスキルを活用しながら、ビジネスの敏捷性とスピードを向上させることができます。Informatica MDM は、既存の IT インフラストラクチャ、分析システム、およびレポートシステムと容易に統合可能です。

価値創出までの時間の短縮、TCO の削減、および ROI の向上

MDM を 3~6 か月で開始できます。Informatica MDM は、構成が簡単で、変化するビジネスニーズに迅速に対応できるため、MDM プロジェクトの各段階で価値創出までの時間が短縮されます。

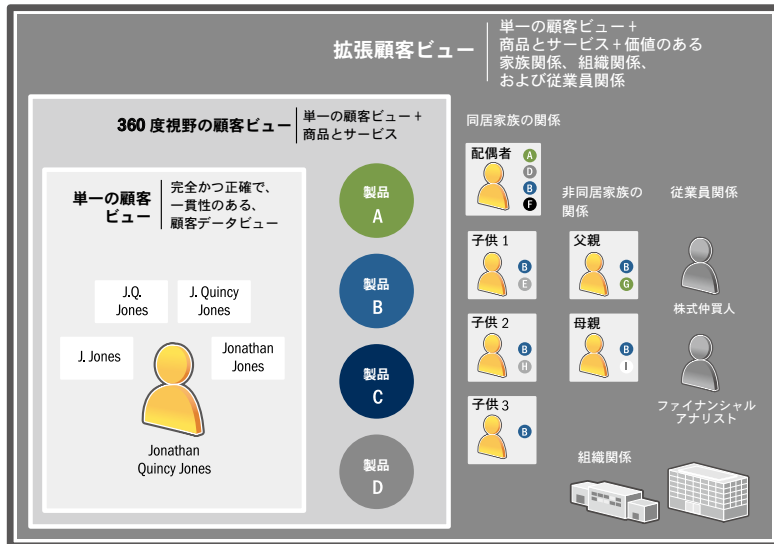


図 1: Informatica MDM の拡張顧客ビュー。顧客が企業全体で利用しているすべての製品とサービスに加え、価値があるにもかかわらず利用されていなかった家族とビジネスの関係を単一の顧客ビューで表示し、営業、マーケティング、顧客サポートを強化します。

お客様の声

「顧客中心主義をさらに推進するために、収益を創出するビジネスソリューションの推進と、顧客経験とサービスの向上に向けて、情報資産を革新的な方法で活用する機会を得られます」

Merrill Lynch

お客様の声

「Informatica MDM を選択した理由は、複数のデータエンティティを単一のマスターデータ管理プラットフォームで処理できる優れた機能と、データの精度、そして短期間での価値創出です。」

Informatica MDM だからこそ、世界中の顧客データ資産を、正確で一貫性のある、信頼できるビューで表示できました」

Weyerhaeuser

お客様の声

「綿密に考案された MDM を利用することで、顧客体験を改善し、重要なコンプライアンスへの取り組みをサポートできました」

Johnson & Johnson

Informatica MDM : Informatica プラットフォームの主要コンポーネント

Informatica MDM は、真に包括的、統一的、経済的で、オープンなデータ統合プラットフォームの貴重なコンポーネントです。Informatica は、MDM プロセス全般（データ統合、データプロファイリング、データ品質、マスターデータ管理）を、同一プラットフォームで完全にサポートします。このアプローチのアーキテクチャーには、重要なプロジェクトを短期間で成功させ、ビジネス価値を長期にわたり維持できるという長所があります。

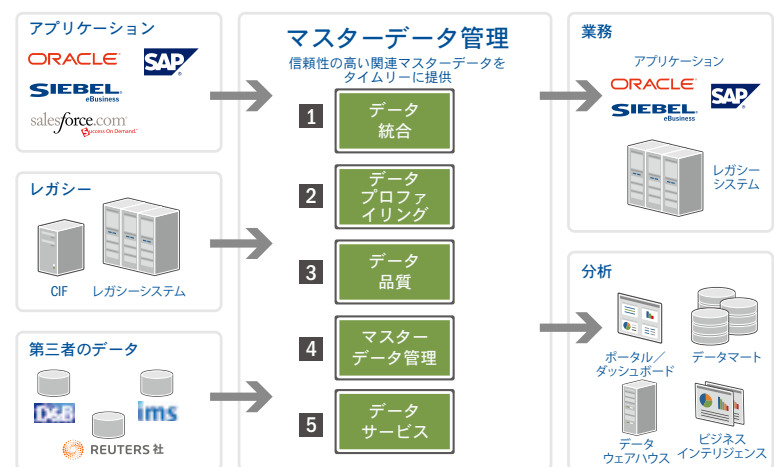


図 2: Informatica のマスターデータ管理 (MDM) 技術は、アプリケーション、レガシーシステム、サードパーティのデータソースのすべてに対応し、あらゆるソースシステムのデータを管理して、業務システムと分析システムの両方に信頼性の高い関連マスターデータをタイムリーに提供できます。マスターデータ管理プロセスの 5 つのステップである、1) データ統合、2) データプロファイリング、3) データ品質、4) マスターデータ管理、5) データサービスを実行できます。

アナリストの声

「Informatica MDM は、短期間での価値創出、柔軟なデータモデル、強力な階層管理機能、アーキテクチャーを進化させ、混成する機能を必要とする組織や、SOA を進化させるのに適しています」

Gartner

詳細について

Informatica プラットフォームの詳細については、www.informatica.jp を参照するか、03-5229-7211(代表) (米国内では 1-800-653-3871) までお電話ください。

Informatica MDM について

Informatica MDM は、ビジネスユーザーにビジネス上重要な、信頼性の高い統合データ（顧客、製品、チャネルパートナー、サプライヤー、従業員のデータなど）やデータ間の関係へのアクセスを可能にすることで業務を改善します。Informatica の柔軟で実績のあるマルチドメインマスターデータ管理（MDM）システムにより、すべての MDM の全要件（データ統合、プロファイリング、品質、マスターデータ管理）が同一プラットフォームで包括的にサポートされます。グローバルのトップ企業が Informatica MDM を選択しています。Informatica MDM なら、まずは小規模に始めて、迅速な実装で差し迫った MDM 関連のビジネス課題を解決し、その後拡張して、社内の他のビジネス課題を解決することができるため、価値創出までの時間の短縮、TCO の削減、および ROI の向上を実現できます。詳細については、www.informatica.com/mdm を参照してください。

インフォマティカ社について

Informatica Corporation (NASDAQ: INFA) はデータインテグレーションソフトウェアおよびサービスにおける世界 No.1 独立系プロバイダーの 1 社です。インフォマティカのソリューションによって、世界中の企業が情報価値を高めることに成功し、ビジネスの最重要ニーズを満たしています。業界初にして唯一の埋込み型仮想データマシン（VDM）である Informatica Vibe は、「一度マッピングすれば、どこでも適用可能」というユニークな機能を備えた Informatica プラットフォームです。現在、世界 5,500 社を超える企業が、社内だけでなくクラウドやソーシャルネットワーク全般を網羅しながら、デバイスからモバイル、ソーシャルから Big Data に至るまでの全ての情報資産から最大限の価値を引き出し、活用することに成功しています。インフォマティカに関する詳細は、www.informatica.com/jp をご覧いただくか、インフォマティカ・ジャパン株式会社、03-5229-7211(代) までお問合せください。



インフォマティカ・ジャパン株式会社

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町 1-1 住友市ヶ谷ビル 13 階
電話：03-5229-7211(代表) FAX：03-5229-7623 <http://www.informatica.com/jp>

©2015 Informatica Corporation. All rights reserved. Informatica, Informatica Logo, および PowerCenter は、米国および世界各国における Informatica Corporation の登録商標または商標です。その他すべての企業名および製品名は、各社が所有する商号または商標です。初版発行：2015 年 3 月

U_7156_MI_2_MDM_BR